1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4710610538		
法人名	医療法人祐真会		
事業所名	グループホーム更竹		
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根1898番地の7		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 14 日	評価結果市町村受理日	平成27年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4710610538-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が医療法人敷地内にあり、入居者の健康管理や急変時に医師、看護師との連携が取れ迅速な対応が可能である。同法人主催の運動会、納涼祭、ハッピー見学等多彩の行事に参加し地域との交流が図れる。法人内に温泉大浴場もあり利用者の希望により入浴が楽しめる環境がある。理念に沿ったケアを目標に、利用者の安心、安全な生活づくりに重点的に取り組み実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に母体法人の病院があり健康管理が充分にできている。また多彩な行事が法人の協力をえておこなわれ参加する機会にめぐまれている。食事のメニューは管理栄養士のもと作成され、栄養のバランスがとれている。管理者と栄養士との連携もとれており、お互いに情報交換を行っている。法人内の経営する宮古では数少ない温泉も利用することも出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年12月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見えやすい場所に明示してあり毎朝職員は、理念確認し業務に取り組んでいる。	理念はフロアに掲示され、申し送り時に全員で唱和している。理念は職員にも周知徹底されており、安全安心を心がけ、自分の親としてケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	医療法人内主催の運動会、納涼祭、ハーリー見学等多彩な行事に参加している。ホーム内に保育園の子供達も訪れ、利用者との交流を図っている。	環境的に地域との関わりが難しいか、母体法人の行う行事に参加することで地域との関わりを持つ事ができる。職員の出身地の方がボランティアに來たり、法人内の保育園児が遊びに來たりする。管理者がキャラバンメイトとして、宮古の里の職員と家族に認知症についての講義を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトで活動し地域への認知症講義を開催して理解を求めている。平成26年6月24日職員研修会で認知症勉強会を開催し、地域貢献について話し合う。又同日運営推進会議でも、議題として取り組む。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、家族会代表者、法人代表者、法人総務課長、民生員、入居者代表、家族参加し運営推進会議開催している。運営会議では、サービス向上に活かしている。	定期的に年6回の運営推進会議が開催されている。運営推進会議のメンバーには、行政、利用者、家族、地域の民生員もほぼ参加されており、毎回、議題にそって話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護長寿課担当者や地域包括支援センター担当者にホームの実情を報告し指示を仰ぎ協力関係に努めている。	担当の介護長寿課や包括支援センターと、法令についての説明や研修案内等について情報交換を行っている。相談は直接窓口を訪問したり、電話等で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針を示し、職員にも身体拘束や行動の制限を行わない支援に取り組んでいる。	事業所として身体拘束をしない方針である。職員にも事業所内研修を行い、周知徹底されている。マニュアルも作成され、入所時、家族にも説明されて納得している。点滴や徘徊時も見守りを密にして、拘束は一切していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に関する研修を受け、ミーティング虐待が起きないように話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の事業所が主催する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、本人や家族にホームを見学して頂きホームでの生活、医療機関との連携体制や利用料金などについて詳しく説明し同意を得て理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃のケアの中で聞くようにしている。家族からは、面会時や家族会、運営推進会議等で聞く機会を設け運営に反映している。	家族会も結成され、家族からの意見等も取り入れられている。利用者の意見等は、日頃のケアの中から汲み取っており、面会時や電話等で家族からの要望はきくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がストレスをためないように、職員相互が気兼ねなく話し合うコミュニケーションの場を設けている。	定期的に職員ミーティングが行われ、職員の声に耳をかたむけ、要望が反映されている。母体法人と管理者が常に話し合いをもち、事業所の問題解決にあたっている。職員研修にも積極的に参加し、業務に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に来られ、職員の業務や悩みも把握する努力している。職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加されている。法人内の研修も参加されている。直近の研修では、10月1日に鹿児島大学救急センター学長の講和で「あなたの身近な人の命を守るために何が出来るかを考えよう」に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員との情報交換や他施設を訪問し互いのケアの質の向上について話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に接する中で、意識的に本人が求めている事を引き出しながら関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、家族に会って家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要か、本人にとってどのように暮らすのが最良なのか見極めて利用開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、穏やかな生活ができる場面を心がけている。昔の生活の知恵など、自宅での暮らしぶりを聞き入れ、教えて頂きながら、家族と同じ思いで、支援し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を見極めながら、外出、外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事等に家族と一緒に参加される環境作りに努め、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも大切にしてきた馴染みの場、行事等本人も参加出来るよう家族との連携をとって、知人、友人の人達にも、遊びに来て頂くよう声かけしている。	これまで利用していたなじみの理美容院や食堂も継続して利用している。法事やお盆等にも帰宅し、家族、地域との関係の維持も保たれている。地域の行事(十五夜)にも、家族と共に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや談話できるスペースを利用して一人一人が楽しく過ごせる場面を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方でも、本人様や家族とも連携をとり、相談にのり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、日頃の会話をとうして把握に努め支援に繋げている。	管理者が各部屋を訪問し、意向の把握に努めている。意思の疎通の困難な方は表情を読み取って意向や健康状態を把握している。不穏状態の方がいたがコミュニケーションを多くとり、明るく接する事により落ち着いている。情報の共有、統一したケア、職員間のコミュニケーションによって意向の把握と支援がスムーズに行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人や家族から聞き入れ、本人を知りケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時に一人一人に何がしたいか確認していて、本人希望に沿うケアに努めている。又食事量や排泄の時間、バイタルチェック、観察等で心身状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、ケアスタッフ同席の中、担当者会議開催し、要望、意見を聞き介護計画に意識的に取り組んでいる。緊急案がある場合は速やかに会議開催している。	介護計画の変更は更新時に行っているが、変化のある時は随時行っている。モニタリングは月1回介護スタッフがを行い、3月に1回、介護支援専門員が行っている。各利用者に担当者が決められており、細かな観察やケアは行われているが、介護計画に反映されていない。	介護者の細かな情報を介護支援専門員に報告し、介護計画に反映させる事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録ファイルを用意しており、日常の暮らしの様子や排泄状況、食事、水分チェック等、身体状況を記録して介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時は速やかに家族へ電話で報告し相談、面会を促している。受診や入院の回避、早期退院の回避等支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会を結成し地域との連携のもと意見交換している。入居者の安心、安全な生活を送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内にある病院をかかりつけ医とし定期的に職員付き添いで受診している。状態変化時も、速やかに主治医へ報告し指示を仰いでいる。他科受診時は、家族付き添いか管理者付き添いで受診し支援している。	ほとんどの利用者が法人内の病院をかかりつけ医としており、基本的に受診は家族対応であるが管理者も同行している。情報の提供は受診時に直接報告しており、病院からの指示もスムーズに把握され健康管理に役立っている。他科受診は家族や管理者が付き添い受診後必ず家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の状態変化時や定期受診日は外来看護師へ報告、相談している。夜間帯の発熱等については法人内の対応看護師に現状報告し適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	手術が必要な時以外は同法人の病院に入院し早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は、終末期にむけて、家族の意志確認をしている。自然の流れで終末を迎えたいとの家族の希望もある。	これまで重度化や終末は法人の病院を利用していたが家族から事業所内での看取り希望がでてきている。看取りにむけての職員教育も少しずつ行われており、協力もえられつつある。管理者を中心に終末期の看取りについての話し合いがもたれているが事業所としての方針は決まっていない。	事業所内での方針を統一し、看取りが実施される事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人が定期的に勉強会もあり参加している。ホーム内でも急変時の対応について勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を年2回実施している。法人職員も協力参加される。	年2回昼夜を想定した消防訓練が実施されている。敷地内に母体病院があり協力体制もできており、避難場所の確認もとれている。スプリンクラーや防火扉等の防災設備も設置されており、職員の教育もされている。災害時の備蓄は法人内で保管管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人一人に対し丁寧な言葉で接していてプライバシーについても職員心得で提示されていて、職員に周知徹底している。	家族からの情報でこれまでの生活歴を把握したり、本人のもてる能力を見だし出来ることをやらせようなどその人らしい生活の維持に努めている。職員は利用者の名前をフルネームで呼び、丁寧でゆったりした言葉づかいを心がけている。トイレ誘導や失敗したときの下着の交換などは気を配りさりげなく行い、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に希望を聞き希望が叶うように支援している。若いころのように毎日化粧して綺麗になりたい等の希望もあり、化粧道具、鏡等を準備しケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員朝の挨拶時利用者一人一人にどのように過ごしたいか確認し希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は本人希望を聞くようにしている。外出、行事等の着替えは職員と一緒に考えて化粧やおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけは利用者と共に行っているが、法人の管理栄養士の献立によりホームで調理している。入居者の好みの味付けや好みの硬さを工夫している。	メニューは法人の管理栄養士によって作成されており、事業所内で職員が調理している。本人の状態にあった食事形態が工夫され、摂取時間も本人の希望を聞き入れている。管理栄養士との連携を密にして高カロリー食を提供したり、イオンゼリーなども取り入れている。食事中民謡がながれ落ち着いた雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給量を毎日記録している。水分摂取困難入居者に関しては、管理栄養士と相談しイオンゼリーを作り摂取している。		

沖縄県(グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に職員付き添い食後の口腔ケアを行っている。口腔ケア困難な利用者はガーゼにてケアを行う。就寝前には、入れ歯を洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握チェックし日中、夜間トイレ誘導を行っている。現在オムツ使用者は1名、他8名はトイレ誘導をしている。	離床や食事の前後にトイレ誘導を行っているが本人の状況を判断して誘導することもある。オムツ使用者は一人で、残りの方は昼夜トイレ誘導をしている。トイレの中にパット等を保管し、人目につかないようさりげなく交換している。骨盤体操を行うことで下肢のこうしゆく予防に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のラジオ体操、リズム体操又レクリエーション等で適度の運動や水分補給を促し便秘気味の利用者はヨーグルトを作り摂取し自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日本人の意志確認し入浴している。法人の外来に温泉大浴場あり希望者は浴槽にて入浴されている。	入浴は週3回を基本としているが、本人の希望を随時取り入れている。入浴を拒否する方には声かけを多くしたり、職員をかえたりして工夫している。暖房設備がされていないため冬場は30分前からお湯を流して室温を調節している。法人内にある温泉大浴場も利用する予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、散歩の活動で穏やかに安心して就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーや薬剤説明書、内服管理表ファイルに整理し、職員は利用者個々の薬の目的を正しく知り服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や食器拭き、洗濯たたみ、時々はおやつのはらやチーやお好み焼き作り等また気分転換にドライブに出かけている。		

沖縄県(グループホーム更竹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴をかねて散歩、法人主催されている父の日や母の日のドライブ、ハーリー、浜下り等行事に参加されて楽しみの場を作っている。	希望者は法人の敷地内を散歩している。他科受診の帰りに食事をしたり買い物をすることもある。母体法人の行事に全員で参加している。(ハーリー、浜下り、クイチャー大会、運動会、敬老会等)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	島外に家族全員いて、母の欲しいものを買ってあげてくださいとの要望があり、好きな刺身や鳥揚げ等を楽しむ支援している。本人管理している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や電話を歓迎していて利用者も自由に使用できるようにしている。ホーム側より島外にいる子供達に電話し本人様と談話できる支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間はバリアフリーでくつろぎの場である。家具の配置、居室に絵画を飾り居心地の良い空間作りをしている。	居間はふきぬけになっており広くて明るい。フロアの1角にはソファを置き、職員や外部者との会議も行われており、会議に利用者が参加出来るような空間づくりをしている。またテレビやカラオケが置かれ、壁には絵画が飾られ五感刺激の配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で入口近くにソファセットを配置して安心して一人や数人で過ごせるコーナーの場所、家族面会時も居心地よく過ごせる空間である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に連絡をとり馴染みの物などを持ち込んでおり居心地良く過ごせるように工夫している。	タンスや洋服かけは事業所で準備されているが本人の希望でテレビ、カセット、鏡、化粧品、写真等も持ち込まれている。家族の希望により泊ることもできる。季節ごとの衣類の交換は家族や職員で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	野内外での園芸をしたり日向ぼっこを楽しめる場の環境を作っている。		